Education first !!

久留米大学医学部
医学教育研究センター
Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第１３号　2016 年 7月発行

医学科１年生特集

この４月に久留米大学に入学してから、７月で３ヶ月になる医学科１年生の今の心境や、学校生活、将来の医師像などを記事にした特集を組みました。今回は、３人の有志から、様々な内容の文章を頂いております。学校生活にも慣れ、また、これから夏休みを迎えるこの時期に気の緩む学生が多くなるのではないかと危惧しておりましたが、この３人の記事を見る限り、彼らの将来はどれも有望だと安心しました。この記事を読むことで、我々教職員も、彼らが久留米大学に来て、そしてこの医学部で学べて良かったと思えるような環境づくりをしていかねばと、改めて感じるきっかけになればと思います。６年後、彼らが再びこの記事を見た時に、どのように感じるか今から楽しみです。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

医学教育研究センターについて知ろう！（その１１）

Q:　朝メニューが増えたと聞きましたが本当でしょうか？

A:　水曜を除く月から金までの朝８時から朝メニューを用意しております。

Q:　朝メニューとは何でしょうか？

A:　安達先生のスマイル（20%増量中）です。どんな相談にもスマイルでお答えします。

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

大学構内のカルガモ親子

今号の特集

- 今月の学生の声（１）
- 今月の学生の声（２）
- 今月の学生の声（３）
- 今月の医学時事

今月の学生の声（１）

医学科１年 箱田 恵子

久留米大学医学部に入学してから約3ヶ月が経ち、大学での授業や実習、部活動など毎日の生活にもすっかり慣れてきました。大学での毎日は、私が入学前に想像していたよりも充実していてとても楽しいです。

毎週月曜に行われる医学入門実習では教授と一緒に病棟や診療科を回りながらいろいろな説明を受けたり、実際に私たちも手術着を着て手術を見学させていただけたりと貴重な体験ができます。1年生の授業は一般教養科目が多くモチベーションが下がってしまいがちですが、この実習のおかげで、実際の医療現場を垣間見ることができ、今、「自分は医学部で勉強していて将来は医師になる」という実感を持ち続けられていると思います。これから6年間、日に日に授業内容が専門的で大変になっていくと聞いて期待と不安が半々ですが、同級生と切磋琢磨しながら乗り切っていきたいです。

また久留米大学医学部が、「先生方や先輩、同級生の繋がりが強い」ということも日々感じています。先日行われたコンサル会では、担当教授と医学科の1～6年生で和気あいあい、アドバイスをいただいたりいろいろな話を聴いたりすることができて、とても心強かったです。このような温かい雰囲気の中、勉強にも部活動にも打ち込める環境に恵まれて、本当にありがたいと思っています。

まだスタート地点に立ったばかりですが、私の将来の医師像は父や祖父たちのような地元で働き地域に貢献できる医師です。久留米は地域の病院と大学病院が連携して医療が行われており、地域医療を学ぶのに最適な環境なので、その夢の実現に向けてこれから一歩一歩進んでいきたいと思っています。

今月の学生の声（２）

医学科１年 西郡 慶

気がつけば、あんなに満開だった桜も散り三か月。蝉の声が聞こえる季節が近づいてきました。僕は歯科医なったあと、再受験して久留米大学に入学しました。二度目の大学生活。10程違う年齢の差に不安を抱きながら、人生で初めて人見知りを覚えました。しかし、学校が始まってしまうと、年の差を感じさせないほど明るく和気藹々とした仲間たちや先輩や先生方のおかげで、抱いていた不安はどこかへ消えていました。

なぜ歯科医を辞めて医学部へ来たのか―

入学してから良くみんなに聞かれます。今思えば、僕にとって歯科医は通過点でした。歯科医になっていなければいまの僕はありません。歯科を学んだことで、人のことをもっと知りたい、命の本源にもっと迫りたいと思い医学を志しました。二度目の受験勉強をしているなか、暖かい声ばかりではありませんでした。もったいない。博打だ。いつになったら働くのか。親不幸者。いろいろ言われることもありました。確かにそのどれもが最もな意見でした。しかし、医学を志す。これだけはどうしても譲れないものでした。また新たな道を歩かせて貰える環境を用意してくれた両親には本当に感謝しています。YESかNOか。人生は選択の繰り返しだとおもいます。後悔しないために、今の自分が出来ることを精一杯悩んで考え抜いてしっかりと決断をする。そして切り捨てた選択肢は心の片隅にとっておく。これが、僕が自分らしく胸を張って生きるには必要なことでした。

夢は諦めても捨てなければいい―

いままで色々なことがありました。でもそのどれもが繋がっていて無意味なものなどは一つもないんだなと感じています。まだ叶っていないものも形を変えていつか叶っているのか

今月の医学時事

ドーピング問題

2016年のリオ・オリンピックが近づいてきました。スポーツ界では様々なドーピング問題が話題になっています。選手の健康を守るためにも重要な話題です。ブラジル国内の認定検査所は１か所しかなく、オリンピック時に開催地でドーピング検査ができない可能性も浮上しています。

<詳しくは巻内記事にて>

日本アンチ・ドーピング機構

http://www.playtruejapan.org/

国際オリンピック教会

https://www.olympic.org/

医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター

もしれないし、諦めても持ち続けていれば、努力をし続ければいつか報われると僕は信じています。高校を卒業して、浪人したときに予備校の先輩で薬学部を卒業して医学部へ進学した先輩がいました。いつの日かその先輩が僕の希望になっていました。29歳でもやればできるということ。僕の姿を見て後に続く人の希望になれれば嬉しいです。29歳だからできること。久留米大学医学部は他大学と比べ再受験生や、30歳前後の生徒の数も多く、幅広い知識や視野に溢れた大学だなとおもいます。これまでの大学での経験や社会人として、歯科医師として、大人としてこのクラスに還元していけるような人でありたいとおもっています。

久留米大学は国家試験合格率が悪いと言われていますが、クラスのまとまりが良いクラスは国家試験合格率も高いと思うので、この仲間たちと6年間仲良く共に高め合えるようなクラスを作っていければ良いなと思っています。

今月の学生の声（３）

医学科１年 今村 勝博

医学科の学生としての生活はさまざまな期待と不安と共に始まりました。勉強、友人、部活動、飲み会など不安のほうが大きかったかもしれません。しかし、そのどれもが予想していたよりずっと良いものでした。ここでは特に、友人と部活動についてお話したいと思います。

友人関係について、私自身の年齢が高めということもあり、いくら多浪が多い傾向にあるとはいえまともに話せる友人が出来るのか心配でした。しかし入学式当日、オリエンテーションの時に横に座っている男子に声をかけると、偶然にも同い年で、再受験であることや同じスポーツをしていたことなどからすぐに意気投合することが出来ました。その後も新入生歓迎のレセプションやBBQ、部活動、食事会、コンサルタント会など打ち解けて話をすることができる機会が数多くあり、様々な学生と仲良くなることが出来ました。医学部の６年間関わり合う友人達は、それ以降の人生でも得がたい存在だと思います。これからも実習や試験対策など、多くの協力・切磋琢磨する機会を通して関係を深めていきたいと考えています。

部活動については、「久留米大学は医学部にもかかわらず運動部が極めて辛く厳しい」というようなことを事前に聞いていました。その中でも、私が所属することを決めたラグビー部は最たるものとして、１学年の間でも噂が先行していました。ではそのラグビー部に何故入部したかというと、一番の理由は先輩方の人柄の良さです。こういうと、まるで言わされているように思われるかもしれませんが、実際に部活動見学やその後の食事会などを通して実感した事実です。確かに部活動自体は非常にきついですが、その中で理不尽に怒られることもなければ、極端に上下関係に厳しいこともありませんでした。しかも１学年が受験勉強を通じて体力が落ちていて、怪我をしやすいことを考慮して安全に配慮した練習メニューが組まれているなど様々な面でサポートの体制が整っています。勧誘の期間が終わったら態度が豹変するという噂もありましたが、６月に入った今となっても先輩方は全く変わらず、面白おかしくフレンドリーなままです。

部活動選びは、入学が決定してからの悩みの中でかなり大きいものでした。実際に入学してからも、数多くの部からの勧誘の中でどの部に入部すれば後悔しないか、悩みに悩みました。今、ラグビー部に入部して全く後悔していないのは、噂を鵜呑みにせず実際に自分が見て、接した印象を信じて意思決定したおかげだと思っています。

余談ですが、友人関係についてのお話で紹介した同い年の彼もラグビー部に入部しました。これからの６年間、部活動に勉強に互いに助け合っていけるようになりたいと思っています。拙い文章ですが、以上が私がお話ししたいことです。こうしたお話をする機会を下さった医学教育研究センターの方々と読んで下さった皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

今月の医学時事

オリンピックとドーピング

国際オリンピック委員会(IOC)が、21日にスイス・ローザンヌで開いた五輪サミットで、ドーピング問題に関して新たな方針を打ち出した。ロシアとケニアの全競技の選手に対して、正当性が保証されている国外の機関がクリーンだと証明すれば、五輪出場を認めるという。（2016年6月23日、朝日新聞）

世界反ドーピング機関(WADA)は、リオデジャネイロの検査所を資格停止処分にした。国際的な基準を満たしていないと判断された。ブラジル国内の認定検査所は1か所しかなく、これにより、8月開幕のリオ五輪は開催地でドーピング検査ができない可能性が出てきた。（2016年6月23日、朝日新聞）

1999年に設立された「世界ドーピング防止機構World Anti-Doping Agency」(WADA)が策定したのが国際基準の「世界ドーピング防止規程World Anti-Doping Code」(WADA規程)。禁止物質になるのは、競技能力を向上させる、競技者の健康に害を及ぼす、スポーツ精神に反すると判断される、のうち2つ以上を満たすもの。ドーピング検査には、競技会検査(競技開始12時間前～競技終了直後)と競技会外検査(練習中や合宿中に行う抜き打ち検査)があり、競技会検査では禁止物質がすべて対象となる。

採取した尿や血液は分析機関に搬送して調べる。喘息の吸入薬のように禁止薬物を病気の治療として使用する場合、申請して承認されれば許可され、ドーピングとはならない。（安達洋祐）

禁止物質

S0. 未承認物質(政府保健医療当局からも承認されていない薬物)
S1. 蛋白同化薬(フルオキシメステロン、テストステロン、クレンブテロール)
S2. ペプチドホルモン・成長因子・関連物質(エリスロポエチン、ヒト成長ホルモン)
S3. β2作動薬(喘息の治療に用いる吸入剤は制限内で使用可能)
S4. ホルモン調節薬・代謝調節薬(タモキシフェン、クロミフェン、インスリン類)
S5. 利尿薬・隠蔽薬(デスモプレシン、プロベネシド、フロセミド、チアジド類)
S6. 興奮薬(アンフェタミン、エフェドリン、メチルエフェドリン、メチルフェニデート)
S7. 麻薬(モルヒネ、ブプレノルフィン、ペンタゾシン)
S8. カンナビノイド(大麻/マリファナ、δ9-テトラヒドロカンナビノール、スパイス)
S9. 糖質コルチコイド(プレドニゾロン、デキサメタゾン、ベタメタゾン、外用と局注は可)

朝日新聞 DIGITAL (1)

http://www.asahi.com/articles/GCO2016062101002261.html

朝日新聞 DIGITAL (2)

http://www.asahi.com/articles/AS-J6T1QMPJ6TUHBI001.html

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。第１３号です。今回は１年生特集を組みました。できるかぎり様々な学生の声や活動を拾い上げて行きたいと思います。

今月のモモンガ

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター 編集担当：柏木 孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
https://csme.kurume-u.ac.jp E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp